

編集後記

長年つづいてきた『城西文学』は、文学科から現代文学学科への改組とともに昨年廃刊となり、ぜひともあらたな学科誌を発刊したいと願っていた。そのような皆の夢を乗せて、『城西評論』はようやく船出することができた。

一昨年の九・一一以来、アメリカによるアフガニスタン攻撃は、いまやイラク攻撃へと進攻し、二十一世紀の平和への願いはすっかり踏みにじられてしまった。不穏な世界の情勢に呼応するように、日本の国内もまた、戦争を準備する法案が着々と整いつつある。不景気の風もおさまらず厳しい状況下での私たちの新たな旅立ちには、決して先行きの明るいものではないけれど、いわば、だからこそ、教育や研究への熱意を、このような形で表現しつづけていくべきだと考えている。まずは教員号の産声をあげ、つづいて学生号の発刊もこころみたいと思っている。

創刊号にもかかわらず、学内の変革期や学年末の多忙な時期と重なり、執筆者も論考自体も甚だ少ない淋しい出発となってしまった。次号からはもっと賑やかな企画になることを期したい。

なお、吉田尚子先生の論考と研究ノートは、今年度における学内の女性学講座での報告をもとにしたものであ

り、中島直樹先生の考察は、今年度初めて実施されたリック・テストの結果報告である。拙稿についても付しておけば、長年、佐多稲子の戦争責任問題を追究してきたが、その一環としてのしめくりの意味を込めたものであり、今回は序章のみで完成に至らなかったもので、次号に続稿を書きたいと思っている。(長谷川)

執筆者紹介(目次掲載順)

青木一男(あおき かずお) 日本文学

吉田尚子(よしだ なおこ) 英文学

長谷川啓(はせがわ けい) 日本近・現代女性文学、女性学

中島直樹(なかじま なおき) アメリカ現代文学

城西評論 第一号(第一巻第一号)

平成十五年三月二十日発行

発行者 青木一男

編集担当 中島直樹

長谷川 啓

吉田尚子

発行所 城西大学女子短期大学部現代文化学科

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一一一

印刷所 新興洋行株式会社